



▲ 6月17日に開催した事前勉強会の様子。市遺族会の会員から戦争体験を聞いた後、大倉公園にある防空壕などを見学しました。

平和大使に中学生16人を委嘱

6月17日、中学生平和大使の委嘱状交付式・事前勉強会を開催しました。公募で選ばれた市内在住の中学2年生16人を平和大使として委嘱。今年、原爆が投下された広島と国内で唯一地上戦が行われた沖縄の2カ所に、それぞれ8人を派遣しました。



派遣前に聞いてみた

みんなが考える **平和** とは



大府北中学校
渡邊 颯さん

守り続けるもの

平和とは、今もこの先の未来でも、守り続けていかなければならないものだと思います。そのために、私たちにできることは、戦争を忘れないこと。私がみんなを代表して、現地ですっかり学び、帰ってきて皆さんのことを伝えたいです。



大府中学校
藤田 実和さん

人々の生活を豊かにする

平和とは、人々の生活を豊かにし、これからも守り続けなければいけないものだと思います。広島に行って、当時の人たちがどのような暮らしをしていたのか、そして、どのくらい大変だったのかなどを学びたいです。



大府中学校
西川 実寿さん

当たり前であってほしい

平和は、いつの時代でも当たり前であるべきだと思います。しかし、実際は現在でも平和とは真逆の戦争が、世界では起こっています。広島に行って、深く戦争のを知ることができるよう、多くのことを学んでいきます。

争いの対義語

私は、「争い」の対義語が「平和」だと思います。争いは悲劇しか生みませんが、平和は幸せや平等を生みます。誰でも暮らやすく、争いのない生活を過ごしていくために、当時のことをしっかりと学びたいです。



愛知中学校
関戸 美舟さん

平和を知りたい

これまで、平和な世の中で生活してきたので、平和とは何なのか正直よく理解していません。なので、実際に地上戦が行われていた沖縄に行って、当時の様子を知り、平和についての理解を深めたいです。



大府中学校
高山 瑛さん

いつ壊れてもおかしくないもの

平和であることは、決して当たり前ではなく、苦しい思いをした方々がいるからこそあるものだと思います。なので、戦争という恐ろしい歴史を現地で学び、今の日本が平和であるありがたさを感じたいです。



大府南中学校
佐藤 和咲さん

終戦から78年。
将来にわたり、戦争のない平和な社会を築くには、
今を生きる私たち一人一人が、普段から平和について意識し、
行動しなければなりません。
市は、平成22年に平和首長会議に加盟し、
平成28年に平和都市宣言をするなど、
平和に関する取り組みを積極的に推進してきました。
平成30年からは、中学2年生を平和大使として、
戦争により大きな被害を受けた国内都市へ派遣し、
現地で学び、感じたことを同世代の仲間らに広める
「中学生平和大使派遣事業」を開始しました。
今回の特集では、
平和大使の活動から、平和について考えます。

大府からつなぐ



PEACE

平和の

笑顔

SMILE

地域福祉課 電話(45)6228



平和記念公園見学



平和記念公園が建っている場所は、広島市の中心的な繁華街でしたが、人類史上初めて落とされた一発の原子爆弾により、一瞬のうちに破壊されました。平和大使は、ボランティアガイドによる解説を聞きながら、公園内にある原爆ドーム、被爆したアオギリなどを見学しました。

ピースディスカッション



平和関連施設を見学し、知識を取り込むだけでなく、自ら平和を発信する力も身に付けるため、事前学習や広島での体験から得た知識をもとに、平和を自分事として考えるディスカッションを実施しました。

平和大使は、「平和×○○」というお題に対し、自分の性格診断から導き出された自分なりの平和の発信の方法を「NPO法人 Peace Culture Village」のファシリテーターと一緒に考え、発表しました。

被爆体験講話



被爆者の体験談や平和への思いを受け継いだ被爆体験継承者の大松美奈子さんから話を聞きました。当時中学2年生だった國重昌弘さんは、爆心地から2km程離れた場所で被爆しました。被爆直後、2回気を失い、周りを歩く友達の頬をなでると、皮膚がめくれたそうです。

INTERVIEW



被爆体験継承者
大松 美奈子さん

原爆に無関係な人はいない

原爆を体験したのは広島と長崎だけかもしれませんが、皆さんも無関係ではありません。こうして広島で直接見て、肌で感じたことは、皆さんの血となり、肉となり、いろいろな思いの結晶となります。その思いは、いろいろな形で皆さんの助けになると思います。

INTERVIEW

ボランティアガイド
田中 美月さん



自分なりの平和を考えて

平和文化を作っていく人たちが増えるほど、世界は平和に近づいていきます。しかし、戦争文化を作っていく人が増えるほど、戦争は起こりやすくなります。

皆さんは「平和って何？」って聞かれるとなんだらうと考えるかもしれません。平和には、答えはありません。一人一人の平和があつていいし、皆さんにもできることがあると思います。自分らしさあふれる自分なりの平和を考えて、アクションしてってください。



原爆ドーム前

MEMBER

2023.7.27・28

大府中学校

井上 和花南さん
西川 実寿さん
藤田 実和さん

大府北中学校

清水 美来さん
西 勇樹さん
渡邊 颯さん

大府西中学校

木村 晴美さん

大府南中学校

大須賀 涼音さん

袋町小学校平和資料館



爆心地から460mしか離れていない袋町小学校。木造の校舎は全て倒壊しましたが、鉄筋コンクリートの校舎のみ、被害を免れました。町の多くの家屋が焼失する中、袋町小学校は町の中で残った数少ない建物で、当時は避難所としての役割を果たしていました。

広島平和記念資料館



被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真・資料が展示され、当時の広島で何が起こったのかを伝えています。平和大使は、音声ガイドを活用し、一つ一つの資料に込められた思いを感じ取っていました。世界に平和の大切さを訴える施設であり、多くの外国人も訪れていました。

チビチリガマ



読谷村にある奥行き50mほどのガマ。当時140人の住民が潜っていましたが、軍に捕まれば残酷な方法で殺されると言われていたことから、住民が集団で自殺する集団自決が発生しました。幼い子どもを中心に83人が命を落としたガマ内には、今もさび付いた包丁などがそのまま残されています。

シムクガマ



読谷村にあるガマで、奥行きは2500m以上もあります。米軍が沖縄に上陸してから、同じ集落にあるチビチリガマでは集団自決による多くの犠牲者が出ました。しかし、このシムクガマでは、2人の避難民の勇気ある行動で1000人近くの人々が助かり、「生死を分けたガマ」と呼ばれています。

ユンタンザミュージアム



座喜味城跡の歴史や、村内の自然環境を紹介する展示など、読谷村の歴史・自然・戦前戦後の暮らしについて、実物・模型・写真などで紹介されています。沖縄に多い墓の形式である亀甲墓のジオラマがあり、地元の人でもなかなか入ることのできないお墓の中をのぞいてみました。

世界遺産 座喜味城跡



戦乱の世だった「三山時代」に活躍し、琉球王国統一後の国の安定に尽力した名将護佐丸によって築かれた城。規模は小さいですが、城壁や城門の石積みの精巧さや美しさは沖縄の城の中で随一といわれ、当時の石造建築技術の高さを示す貴重な史跡です。

平和ディスカッション



2日間さまざまな施設を見学して、学んだことや感じたことを自らの言葉で発信するための平和ディスカッションを実施。グループに分かれて、平和とはどんな状態なのかを話し合いました。最後に沖縄で学んだことを生かして、自分たちができるアクションプランを発表しました。

OKINAWA 沖縄



平和祈念公園内

MEMBER

2023.8.23-25

- | | | | | | |
|--------|-------------------|--------|---------------------|--------|--------------------|
| 大府中学校 | 加古 蒼大さん
高山 瑛さん | 大府西中学校 | 加藤 さくらさん
久納 一平さん | 大府南中学校 | 佐藤 和咲さん
鈴置 晋平さん |
| 大府北中学校 | 金納 知咲さん | | | 愛知中学校 | 関戸 美舟さん |

ひめゆり平和祈念資料館



沖縄戦の体験と平和の尊さを伝えるため、ひめゆり同窓会によって設立。証言映像や当時の写真などを通して、ひめゆり学徒隊が体験した沖縄戦の様子を伝えています。沖縄戦で亡くなった生徒や教師のための慰霊碑「ひめゆりの塔」に、全員で黙とうをささげました。

沖縄県平和祈念資料館



戦争の犠牲になった多くの霊を弔い、恒久平和の樹立に寄与するための施設。常設展では、開戦から沖縄戦にまで至った一連の流れや、住民の視点から見た沖縄戦の状況、終戦から日本復帰までの沖縄の歩みが紹介されています。平和大使は、地中から発見された不発弾を見て、恐怖を感じていました。



▲ 9月17日に開催した中学生平和大使派遣報告会の様子。現地で学んできたことを岡村市長らに報告しました。



派遣後の **平和大使** について皆さんに聞いてみました

保護者



自分の考えを持つことの大切さ

この事業に参加する前は、家で戦争や平和のことを話す機会がありませんでしたが、沖縄から帰ってきたからは、現地で学んできたことをたくさん話してくれました。

特に、チビチリガマとシムクガマでのリーダーの判断の差で、全員が死ぬか生き残るかの違いが出たことが驚きだったようです。この事業を通して、自分自身の考えを持つことの大切さを学べたと思います。

高山瑛さんの保護者 奈々さん 信行さん



客観的な考えから主観的な考えへ

娘は、元々戦争について興味を持ち、よく図書館で戦争に関する本を読んでいたので、「実際に現地へ行ってみよう」と、この派遣事業に参加しました。

実際に現地を見て、現地の人から話を聞くことで戦争の悲惨さを学び、平和は私たちが守っていかなくてはならないものと、主観的に考えるよう変化していました。今度は、娘にガイドしてもらいながら、家族みんなで広島を訪れたいです。

清水美来さんの保護者 英里さん 裕介さん

平和に向けたメッセージ



10月1日、戦没者を慰霊し、平和への誓いを新たにするため、平和祈念戦没者追悼式を開催しました。式典では、平和大使の4人が、実際に現地で学び、知り、考え、肌で感じたことをまとめた「平和に向けたメッセージ」を発表しました。ここでは、一部を抜粋して紹介します。市ウェブサイトでは、平和大使が派遣後にまとめた報告書を掲載しています。



私が考える平和とは

広島に訪問する前、平和とはどういうことかの質問に「なくてはならないもの」と答えました。実際に広島に行き、戦争の悲惨さを見て、体験し、感じ、考えることは大切だと実感しました。そして、私たちのような若い世代が工夫して、協力しながら平和の大切さを伝えていかなくてはならないと思いました。帰りの新幹線で、行きと同じ質問に対して「私たちが、守っていかなくてはならないもの」と力強く答えることができました。

大府北中学校 清水 美来さん



「平和」への道を歩む

平和な日々を実現するためには、広く多様な視野を持つことが大切だと思いました。自分の立場から見た視野だけでは見えない部分を他の人の立場になって一度見つけ直すことで、新しい考え方が生まれてくると思います。相手と手を取り合って歩んでゆける道を見出すことができれば、世界は笑顔に満ちあふれた「平和」な世になっていくと思います。今回派遣で学んだ「平和」を胸に、笑顔を咲かせていきたいと思っています。

大府中学校 加古 蒼大さん

市遺族会



平和の輪を広げてほしい

平和大使の皆さんのメッセージを聞いて、実際に現地に行き、いろいろ学ぶことで、考え方に变化があるなと思いました。「平和とはどういうことか」という質問に対し、行く前は「なくてはならないもの」、帰りには「私たちが守っていかなくてはならないもの」と力強く答えられたという清水さんの言葉に驚きと頼もしさを感じました。

派遣前は概念としてしか頭の中になかったものが、現地へ行って実際に見て、現地の人にお話を聞くと、戦争とはこんなに悲惨なものだったのだとよく分かったことでしょう。今回の派遣で学んできたことを、いろいろな人にお話しして、平和の輪を広げてほしいです。

市遺族会 中田 紀子さん



踏み出した平和への一歩

現地で、説明や伝承者の話を聞いて、たった一発の原子爆弾が多くの命を奪い、生き残った人々の人生も変えたことを知りました。今、当時を生き抜き、頑張ってきた人たちがいて、私たちは平和に過ごせています。しかし、国家間の紛争など平和ではない一面もあるのが現実です。平和な世界の実現のために私たちが出来る事。それは全世界へ「人々の笑顔・夢・希望が身勝手に奪われないようにする為」に絶対に戦争をしてはいけない」と発信する事だと思います。

大府北中学校 西 勇樹さん



平和のためにできること

私はガイドの方の「戦争には色がある、匂いがある、味がある」という言葉が忘れられません。現地に行くことで、その言葉が肌で実感できました。そして私は、平和のために自分ができることは何かと考えました。私は今回学んだことを身近な人に伝えたり、新聞を読んだりして、もっと世の中のことを知りたかったです。思いやりの心を持ち、自分の命も人の命も大切に生きていきたいと思っています。そして、世界から戦争がなくなってほしいと強く願います。

大府西中学校 加藤 さくらさん